日経夕刊 100519
17 社会 4版 【第三種郵便物認可】

不登校経験者らラオスを支援

イベント収益で学校建設

不登校経験者らのサポート校「東京国際学園高等部」（東京）の生徒が、学校不足に悩むラオスの支援活動を続けている。22、23日には東京・代々木公園で2007年に続いて2回目の「ラオスフェスティバル」を開催。フリーマーケットの収益や募金などで、小学校1校の建設費約350万円を集める計画だ。

支援活動は校長の呼び掛けで1996年の文化祭に始まり、既に6校を建設。着工時には生徒がラオスを訪れて工事を手伝い、現地の子どもたちとの交流も重ねてきた。中学時代に参加経験がある1年生鳥山天晴さん（15）は「通訳がなくても一緒に遊べば心を通わすことができた。自分も募金活動を通じて役に立ちたい」と意欲を見せる。

学園の生徒約500人のうち7割が不登校や引きこもりの経験を持つ。フェスティバルの運営委員を務める2年生滝沢紗弥子さん（17）も中学校時代、自分自身への悩みから登校できなくなったことがある。「貧しくて学校に行けない子が多いラオスについて学園で学んだことで、自分のことを考え直すきっかけができた」と振り返る。

募金箱の準備をする鳥山天晴さん㊧ら（東京都渋谷区）

遊佐希子副校長は「ラオスでの体験や支援活動が、生徒を成長させる大きな力になっている」と話している。

フェスティバルは両日とも午前10時～午後7時に開催し、入場は無料。ラオス料理の販売や民族舞踊のステージもある。